

# WAKO CIRCLE

WAKO CIRCLE

No.130

2011/11/01

発行人 ● 伊藤達夫  
発行所 ● 和光大学

東京都町田市金井町 2160 ☎044-988-1433 <http://www.wako.ac.jp/index.html>

和光大学通信  
No.  
**130**  
2011/11/01



## CONTENTS

- 芸術学科を知ろう ● ボランティア活動報告
- Campus Snap(思い出のある作品を教えてください)
- Club Activities(岡上農園部) ● トレーニング室で汗を流そう
- 授業アンケート結果 ● MY CHOICE(遠藤朋之先生)



## OUR NEIGHBORS

Vol.10

～ 隣人探訪 ～

宮野 薫さん 多満江 さん

大正橋の程近くに、宮野薫さんの広々としたご自宅はある。敷地内の入口には立派な蔵が立っており、その蔵を囲むように禅寺丸と呼ばれる大きな古い柿の木がある。青々と茂る庭の芝生の向こうには、緑豊かな山が望める。

「緑がいっぱいあっていいですね、なんて言ってくれる人もいるけど、あんまり緑が茂ってきちゃってまいるよ」そう冗談めいて語ってくれた宮野さんは、年齢80を越えられた、岡上地域の生き字引とも言える存在だ。

大学とは、堂前雅史先生の授業でゲスト講師を勤められたり、岡上農園部に畑を貸し出したりといった交流がある中で、坂下の田んぼの地主さんというつながりもある。

坂下の田んぼでまず浮かぶのは、どんど焼きだろう。

どんど焼きとは、年の初めに一年の豊作を願い、お焚き上げをして「さいの神」を祭る民間神事で、1996年、和光大学名誉教授の鈴木勲介先生や、元町内会長・鎌谷衛さんの呼びかけで復活した伝統行事だ。今でこそ地域交流を育む大きなイベントだが、奥さんの多満江さんいわく昔は違ったとのこと。

「子ども達が薪を採りに行って、自分達で手作りしたのよ。今よりずっと小さな行事だった」

どんど焼きはかつて、子ども達が主体のお祭りだったそうだ。「手作りといえば、昔は遊びもみんなそうだよね」

当時の子ども達は木登りや魚釣り、果ては自分達で道具を作って鳥まで捕まえていたそうだ。そうした遊びの技を支えていたのは、竹ひこで籠を編んだり、川で洗濯をしたりと、日々手伝っ

た家の仕事だった。

「昔は、大変な生活を当たり前のようにしていた」周囲は山と川ばかりで、商店も町に一、二軒。自給自足が生活の基本だったと宮野さんは語る。

そんな岡上も、昭和35年くらいから徐々に人口が増えていき、町は大きく成長を遂げて今に至ったそうだ。

「まさかここに大学ができるなんて思わなかった」宮野さんご夫婦の思い出を聴いていく中で、地域のかつての姿がゆっくりと浮かび上がってきた。

やがて、景色や風習は形を変える。それはとても自然なことだ。しかし、過去をないがしろにしていわけではないだろう。私たちは過ぎ去った時代に支えられているのだから。

だが、それらの事実は今では気づかれにくくなってしまっている。しかし時折、昔の姿をほんの少し残しているモノがある。それは自然であったり、創作物であったり、人のお話であったりとさまざまだ。

「少しでも知ってもらいたいね」宮野さんのお話や活動の背景は、そうしたことにほんの少し気持ちを向けてほしい想いの表れなのかもしれない。



(文・T.R) どんど焼きの様子